

公益財団法人札幌交響楽団

第65期 事業計画書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行う。

一般会計事業

定款第4条に掲げる事業を次のように行う。

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

名誉音楽監督・友情指揮者・正指揮者、首席客演指揮者 各1名、楽団員78名で維持編成する。

※現楽団員数 76名。欠員に対して、随時オーディションを実施、78名で維持編成する。

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

オーケストラによる演奏会を119公演開催する。

■自主公演 合計41公演

○定期演奏会（第660回～667回）・・・16回（8プログラム各2公演、全16公演）

定期演奏会はオーケストラのレパートリーを増やし、札幌交響楽団の理念のひとつ『演奏の質の向上』を目指し、世界水準の演奏を提供する。

一年間首席指揮者が不在となる2024年度は「音の魔術師」との異名をとるシャルル・デュトワを定期演奏会に招聘するほか、本場ドイツで活躍する上岡敏之がブルックナーを指揮、次期首席指揮者のエリアス・グランディがマーラー交響曲第1番「巨人」を振り、またこの年で引退を表明している井上道義が大オーケストラによる型破りな問題作クセナキスのノモス・ガンマを披露するなど、話題豊かなプログラミングである。

○hitaru シリーズ定期演奏会・・・4回

多くの方に人気のクラシックの名曲を主たる演目とし、邦人作曲家の作品を紹介し、次代へ繋げる。2024年度に首席客演指揮者に就任する下野竜也は、第18回 hitaru 定期でスメタナの「わが祖国」全曲を指揮する。利便性の高い札幌文化芸術劇場 hitaru で平日夜7時から演奏会を継続して実施する。

○名曲コンサート・・・4回

定期演奏会、hitaru シリーズ定期演奏会への導入として、各回の指揮者が選んだ様々な色合いの名曲集を組み合わせる。友情指揮者広上淳一の「三大B」、秋山和慶の「続・オーケストラで出発進行」、正指揮者川瀬賢太郎による「ローマ三部作」、下野竜也の「宇宙戦艦ヤマト」と堅苦しいと捉えられがちなクラシックコンサートに親しみをもってもらう。

○特別演奏会・・・合計17回

・札幌市内・・・9公演

「札幌シンフォニック・ブラス」・・・・・・・・・・・・・・1公演

「札幌の第9」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2公演

「夏休みスペシャル」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2公演

「低価格コンサート」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3公演

「札幌交響楽団 in ふきのとうホール演奏会」・・・・・・1公演を予定。

中高生の吹奏楽部員などに向けてコンクール課題曲を披露するシンフォニック・ブラス、年末の恒例行事である第9、2022年度に実施した絵本「おぼけのマーलとたのしいオーケストラ」をベースとした夏休みスペシャル、小編成の管弦楽曲を届けるふきのとうホール演奏会である。また2023年度も実施している札幌市との共催公演「低価格コンサート」を開催する。

・北海道内・・・7公演

6月 2日・・・・・・鶴居村

7月10日・・・・・・中富良野町（協力：萬田記念財団）予定

7月13日・・・・・・伊達市

8月20日・・・・・・北見市

8月21日・・・・・・清水町

1月18日・・・・・・小樽市

3月22日・・・・・・苫小牧市

鶴居村は13年振り、中富良野町は1995年の100年記念演奏会実施以来、伊達市は伊達150年記念であった2019年以来の訪問である。道内自主公演の開催地は、毎夏財団の事務局員が過去の演奏歴などをもとに道内市町村の教育委員会等を訪問し、決定している。なお「札幌ニューイヤーコンサート in 小樽」は2005年から北海道新聞社と共催、苫小牧市は2019年から札幌自主公演として行っている。

・北海道外・・・1公演

2月 3日・・・・・・東京

■依頼公演・・・合計49公演

- ・札幌市内・・・35公演
- ・北海道内・・・14公演

札幌市内の依頼公演には、hitaru で開催のオペラ、バレエそれぞれ2公演のほか、恒例のほくでんファミリーコンサート、道銀ライラックコンサート、北洋銀行 Presents クラシックコンサート、タナカメディカルグループ主催無料コンサート、などが予定されている。HTBは毎年年末のジルベスターコンサートの開催があるほか、クラシックに留まらないアーティストが出演する追加公演が予定されており、2023年度初めての開催となった第1回北ガスグループ クラシックコンサートも身近な演奏会として今後の継続が予定されている。北海道内公演は定期演奏会として稚内、釧路、栗山などを訪問する。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

■音楽教室・・・合計29公演

- ・札幌市内・・・16公演
- ・北海道内・・・11公演
- ・北海道外・・・2公演（文化庁依頼による学校訪問、3月末に実施校決定）

文化庁依頼による学校訪問は例年3月末に訪問先が決定となる。予算は2023年度開催実績6公演を参考にして策定する。

○ワークショップ（音楽創造体験プログラム）

教育への貢献事業として小中学校等へ少人数の楽団員が出向き、演奏を行い、ともにパフォーマンスをするなど参加型のプログラムである。一部大学でも実施する。また、オーケストラ演奏会の事前訪問として、当該校からの要請によりワークショップを実施することもある。

○楽器講習会（演奏指導）

楽器の演奏指導を通して楽団員と児童・生徒が音楽を通して交流を深め、技術向上を目指し、演奏に参加して得られる感動を広めることがねらい。回数は特に定めず、オーケストラの演奏日程に合わせ、スケジュールに組み込んでいく。

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

■広報宣伝

プログラムの発行

定期演奏会はじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布する。

ニュースレターの発行

活動報告、公演案内、チケット発売情報など、最新情報を掲載したニュースレターを随時発行する。また定期会員へは、定期演奏会前にメールで開催案内を送信する。

ホームページ、フェイスブック、X（旧ツイッター）、Instagramによる広報、YouTubeからの情報発信

札幌の公式情報はホームページにて発表することを基本とし、各 SNS はその特性に合わせ、情報を受け取る一般の方々からの反応も鑑み、出演者のスナップショットやメッセージなど、求められる情報と発信したい情報のバランスを取り運用する。

フェイスブック、X（旧ツイッター）は、主にチケット発売情報や当日券情報などを広く周知するために活用、Instagram は興味喚起から認知向上を目的として活用する。YouTube は定期演奏会のオンラインプレトークや出演者のメッセージを配信するなど、生の声を通して来場前後にプログラムの背景や奏者の気持ちなどを知っていただくことで、より理解を深め、音楽を楽しめる工夫をしていく。

自主公演チケット購入の利便性の向上

全道に店舗展開をするセイコーマートの店舗でも札幌のチケット販売を開始したほか、当日券売り場で電子マネー決済をスタートした。ローソンチケットサービスの一つである、電子チケットの購入者数も増加している。

■その他の公演事業等

アンサンブル

クラシック音楽普及のために楽団員によるアンサンブル演奏会を行う。コンサートホール以外の様々な場所でも演奏し、身近な札幌をアピールする。

出張演奏

特別支援学校、高齢者向け施設、病院などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることが困難な方々に音楽鑑賞の機会を提供するなど、社会貢献活動を引き続き積極的に行う。

インターンシップ生の受け入れ

教育機関、オーケストラ連盟などからの依頼により事務局ならびにステージ業務を体験するインターン受け入れを継続。音楽を創造する現場を自らの目で見て実践することにより、仕事の厳しさとやり遂げたときの喜びを体験する。

指揮者、楽団員、事務局員によるレクチャー

カルチャースクール、新聞社、放送局等と提携し、クラシック情報の発信を行う。生の声を届けることにより、舞台とは違う音楽家の生身の姿を紹介する。

周年特別会計事業

定款第4条に掲げる事業を次のように行う。

- (1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。
名誉音楽監督・友情指揮者・首席客演指揮者・正指揮者各1名、楽団員78名で維持編成する。
- (2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。
「一般会計事業」として実施。
- (3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。
「一般会計事業」として実施。
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。
「一般会計事業」として実施。
2031年の創立70年に向けて海外公演を含め周年事業開催の検討を開始する。

資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

1. 資金調達の見込みについて

当期中に資金調達の予定はありません。

2. 設備投資の見込みについて

当期中に重要な設備投資(除却または売却を含む)の予定はありません。